

名古屋芸術大学グループ 通信

02
November
2006



Feature

〈特集〉
幼児・児童と
芸術教育
芸術的感性教育の
めざすもの

News/topics

ニュース&トピックス

名古屋芸術大学／短期大学部

- 2006年度前期交換留学生作品展
- 美術学部・デザイン学部 オープンキャンパス
 - 国土緑化運動の記念切手に採用される
 - 東濃地区卒業記念演奏会を終えて
- 北名古屋シティ管弦楽団 第一回定期演奏会
- イタリア音楽コンクールで「イタリア大使杯」を受賞
 - 鮫島有美子先生 夏期公開講座
- 名古屋芸術大学ウインドオーケストラ定期演奏会
- 新学部(人間発達学部・子ども発達学科)教育懇談会
 - 新学部(短大)オープンキャンパス
- 音楽教育コース 夏期休業を利用したの活動状況
 - 2006年度 第14回 文化創造セミナー
 - 韓国 昌信大学を訪問して

名古屋保育・福祉専門学校

- 介護福祉科観実習

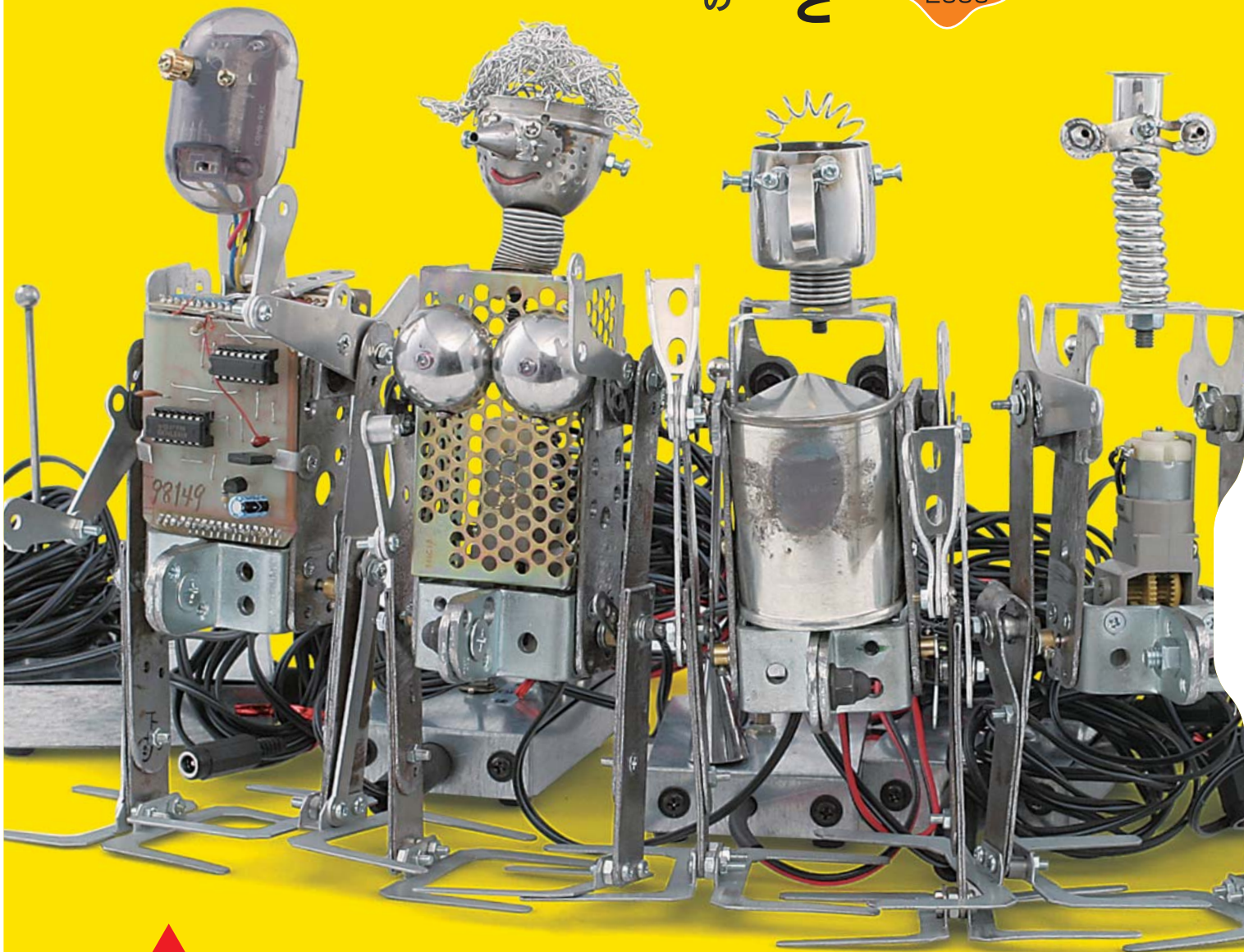
幼稚園

- 滝子幼稚園 恒例の夏祭り
- クリエ幼稚園 お泊り保育

Information

インフォメーション

- 2006年11月以降の主な行事・イベントスケジュール
- 人間発達学部(仮称 設置認可申請中)入学試験実施予定
 - 編集後記



名古屋芸術大学グループ
<http://www.nua.ac.jp>

名古屋芸術大学／大学院
音楽学部 美術学部 デザイン学部
名古屋芸術大学短期大学部／音楽科 保育科

名古屋保育・福祉専門学校／保育科 介護福祉科
名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園、滝子幼稚園

Feature

幼児・児童と 芸術教育 芸術的感性教育の めざすもの



多様な価値観、インターネットからの溢れる情報、また過度な刺激など、今、子どもたちを取り巻く社会環境は急速に変化しています。さらに、近年多発している子どもを狙った凶悪な犯罪で、戸外で遊ぶこともままならない子どもが増えています。

子どもが健全な大人として育ち、自立していくことが教育の最大の目標です。このため、就学前教育や初等教育の段階では知育に偏ることなく、社会全体で子どもを見守り、子どもの「生きる力」を引き出す体験型学習の重要性が叫ばれています。「感性教育」の目指すところはまさに真の「自立」です。子ども生来の五感に訴えながら、彼らの生命力や創造力また、自由な発想力・表現力などを引き出すものです。幼児期における感性教育が重要なのはこの点からも明らかです。

名古屋芸術大学は短期大学部の保育科やグループ内専門学校の保育科で、長年にわたり幼児教育の実践活動を展開してまいりました。また、大学では多くの先生方が附属の幼稚園児や近隣の小学生たちを対象として、音楽・美術・デザインなど芸術分野からの感性教育を実践しています。2007年度4月に開設予定の「人間発達学部 子ども発達学科(仮称:設置認可申請中)」は、こうした教育実践の成果を結実させた時代のニーズに応えることの出来る教育者(保育者)を養成する学部です。

今回の特集は、本学で実施されている幼児・児童を対象とした芸術的感性教育の一部を取り上げてみました。子どもたちの潜在的な能力を引き出し「生きる力」を育む一翼を担う事が出来ればと考えています。



幼稚園児の「オーケストラを楽しもう」

幼稚園児の音楽教室を始めるようになったきっかけは、「音楽大学の附属幼稚園なのに、園児に生の音楽を聴かせる機会がないのは淋しい。何か出来ないか」と幼稚園側からでた一言でした。仕事上、小・中・高生の音楽教室にオーケストラの一員として出演していることもあり、「このような演奏会(音楽教室)にすることは出来ますよ」と話をすると、「では、ぜひ」と返答があり、この音楽会が始まりました。

2004年に「第1回親子でオーケストラを楽しもう」というコンサートを行いました。この時は、名前の通りオーケストラで使用される楽器で4つのアンサンブル(弦・木管・金管・打楽器)にそれぞれ数曲演奏してもらい、最後に全員で合奏するといったプログラムを組みました。2005、2006年度は名古屋ウイン

ドアンサンブルの協力を得て、吹奏楽の演奏会を行いました。

どの演奏会においても選曲に関しては、1. その時に子ども達の中ではやっているもの 2. 以前から人気のあるもの 3. 聴いていて退屈しないもの(テンポが速い、リズムが面白い等)など気を配りました。また、第1回目は合唱、2・3回目は手作り楽器で合奏に参加してもらおうといった演出面でも工夫をしてみました。

今まで3回行った演奏会での園児たちの反応を見ると、知っている曲や自分が参加できる曲になると至って元気になり、積極的に参加してくるのがとても印象的でした。ただ演奏時間においては、余り長い時間になると園児の集中力が続かないようで、父母や先生方が注意を促している場面もありました。幼稚園側からは、

園児が1. 楽器に興味を持ち名前を覚えるようになった 2. 楽器の音を聞き分けることができるようになったとの成果が報告されています。

幼稚園児の芸術的感性を磨く音楽情操教育の一環として今後も継続していく予定ですが、いろいろな物事に敏感に反応する子どもゆえに、こちら側も創意工夫しながら楽しい演奏会を心がけていきたいと思っています。



依田 嘉明

(よだ よしあき)
音楽学部
演奏学科専任講師

1990: 滋賀県立高等学校を経て同大学院修了
1990: 宝塚バグパイプコンクール室内楽部門第2位
1990: 8月に渡英、オランダ・スウェーデン
音楽院で学ぶ
オーケストラ・ダブルリードアンサンブル
のメンバーとしてヨーロッパ各地で公演
1992: 帰国
1998: セントラル愛知交響楽団に入団
2002: 3月まで同団に在籍
2002: 4月より名古屋芸術大学専任講師および
セントラル愛知交響楽団契約員



幼稚園児の版画教室

附属クリエ幼稚園年長園児たちの版画のワークショップを始めて、今年で7年目になります。

また旧園舎、つまり第二幼稚園のところで、園児が思うように集まらず、ちょうど学内のギャラリーBEで開催していた版画コース非常勤講師の松岡徹先生の展示会のオープニング・レセプションに、理事長と前園長が訪れ、楽しい松岡作品を見て「西村先生のところで何かやっていただけませんか」と依頼を受けたのがきっかけです。

園児たちが美術の体験を通じて、感性豊かになることを期待しての依頼で、私と松岡先生は、考える時間があるものと気楽に受けたのですが、数日後園長からのすぐ始めてほしいとの連絡に、正直あわてました。

そこで、私たちは、保育に素人の我々ができること、我々が面白いとすることが、必ずや園児たちに伝わると考え、大学の版画工房に園児たちが来て、学生と同じ内容を年長園児たちに体験してもらうことにしました。

初年度は、エッチングとリトグラフと紙漉きを昼食を挟んで正味2時間の実習で、2回1セットで6日間で全員が3つ全部を体験できるようにしました。

私たち2名の教員に、版画コースの技

術員と学生たちがボランティア・スタッフとして加わり、園児たちに版画等の専門的な実技を教えるのは初めてなので、ミーティングを重ね、自主性を重んじ、準備から片付けまで極力園児たちにやらせ、危険に対しては十二分に配慮し、絵の内容や描き方等には口出しせず、技術面での補助に徹することなどを確認しました。

実際にやってみて、私たちの予想通りにいかないことも多々ありますが、教員だけでなく、学生からも、対処する様々な意見やアイデアが出されて改良し、その年の園児たちの資質にあわせて変化させて来ました。

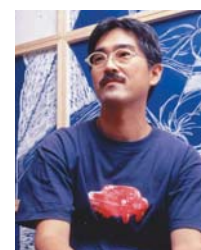
たとえば、金属板を直接ニードルでひっかいて版を作るドライポイントでは、金属を削りながら絵を描くため、滑らかな線が引けず、それが瑞々しい描線になる魅力があります。しかし、園児たちはまだ金属に深く線を引っ掻く力がないので、浅くて弱々しい線しか引けず、色の薄い刷り上がりにしかならない問題がありました。そこで、担当の先生と学生たちが、自分たちが制作した版を実際に園児に触らせて、どれぐらい引っ掻けばよいかを指先で確認させたところ、ともしっかりとした線が引つ掛けるようになり、刷り上がりがグンとよくなりました。

このワークショップは、成果をギャラリー

BEでの展示会で締めくくり、2005年からは会期中の会場で年中親子で楽しむワークショップも初め、参観する父兄も加わってあの大きなギャラリーが超満員になります。自分の作品がギャラリーに並んでいるのを両親などに紹介している園児たちは、とても誇らしげです。

当初15名程度だった年長園児が、今や60名にも増え、写真や紙の張りぼてランプ等メニューを増やし、関わる先生や学生も増やし対応していますが、設備、日程、スタッフや経費のやり繰りで頭を悩ませているのが現状です。

しかし、このワークショップが長らく継続できているのは、やっている内に、園児と学生双方に作品を作る楽しさが満ちて来るのを目の当たりにするからで、今後も机上ではなく現場で直接関わりながら、小さな内に美術の魅力を経験してもらうささやかな機会を継続していければと願っています。



西村 正幸

(にしむら まさゆき)
美術学部助教授

1957: 奈良県に生まれる
1981: 京都精華大学デザイン学科卒業
1983: 京都市立芸術大学大学院版図専攻修了
1996
~7: 日航財団「空の日芸術賞」を受賞し、ドイツで研修。
現在、名古屋芸術大学美術学部給画科版画選択コース助教授。



ワークショップの導入。N/N (エヌツー) で子どもたちに内容の説明を行う。



懐中電灯とデジタルカメラを使用。光の軌跡が絵となるように、カメラの露光時間を「長く」設定。公園のバンダが火を噴く怪獣に!

● 子どもの映像ワークショップ

1998年に「コミュニティ・ビジネス」に関する新しい事業計画のアイデアを、コンペ形式で募る公募（NPO法人が主催し、当時の通産省が後援）に企画書を提出しました。まちづくりとデザイン手法の関連を再考するよい機会だと思い、「地域デザイン／まちづくりにおける（主に児童のための）造形活動支援空間の設置と利用」という事業計画書をコンペに出し、入選は逃したものの、「次点」という評価を頂戴しました。ここでは新しい造形教室を中心市街地に設置することを提案し、様々な「体験」の場を子どもたちに提供することを計画の主軸としました。具体的には、1. 街の様々な「専門家」を講師として招聘し、絵画、造形、メディアを横断的に利用し、教室から街全体に到る地域を活動の場としてワークショップを行う。2. 創作活動を行っている全ての個人／団体に発表の場「ギャラリー」を提供。3. 「ワークショップ」で子どもたちが制作した造形物・写真・ビデオなどを管理／蓄積し、地域デザイン展開のツールとして還元。子どもたちと感じた疑問・発見を常時蓄積していき、それらを基に地域振興のためのコンサルテーションを行う、といった内容でした。

本学デザイン学部に着任後、名鉄・西春駅前に「N/N（エヌツー）」というスペースが町と大学の共同運営により展開されると聞き、考えていた概念にたいへん近いものが具体化している状況に興奮しました。そんな折、N/Nの運営に関わっておられるデザイン学部教授の平田先生からお声をかけて頂き、実際に上記企画書で計画していたワークショップを数回実践させて頂いています。

ワークショップでは主にデジタルカメラなどのメディアを活用します。そういった道具を使うことで、見慣れた街の風景を異化し、日常にはない映像体験を子どもたちと共有しています。正確に言うと「日常にはない」のではなく、視点を変えることで飛び込んでくる「見えなかった日常」の体験を共有することがテーマとなっています。ワークショップの醍醐味はなんといっても、結果が予測できない点にあると思います。当然想定したコンセプトをもとにワークショップを行いますが、子どもたちが生み出すカタチやアイデアは大人の想像を遥かに超えたものです。そういった視点を蓄積し、新たな知に変換していくことが上記の事業計画の最大のコンセプトなのです。

市民活動の後方支援的立場としての「ファシリテータ（促進者）」、あるいは異分野間をつなぐ橋渡しの役割としての「インタープリタ（翻訳者）」。新時代におけるこれらのキーワードは、いずれの場合も決して組織の「リーダー」を意味するものではありません。しかしこの「仲介者的能力」を持った役割が、ありとあらゆる分野で必要となっているのが現代であるといっても過言ではありません。デザインや美術といった能力が思考と結びつくことで、多様な領域間のコミュニケーション回路を形成する…今後もこういった研究を深めていく計画です。



池側 隆之
(いけがわ たかゆき)
デザイン学部
メディアデザイン
選択コース専任講師

1968年大阪生まれ。関西学院大学文学部ドイツ文学科(現・文学言語学ドイツ文学ドイツ語学専修)中退後、東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科ビジュアルコミュニケーションデザイン研究領域修士(デザイン工学修士)。広告代理店勤務、フリーランスを経て、2002年より名古屋芸術大学デザイン学部メディアデザイン選択コース専任講師。専門は映像デザイン、情報デザイン、映像作品の制作/発表と併せて、異分野間をつなぐデザイン手法としてのインタープリテーション技術(翻訳)についての研究を行う。日本映像学会・理事。

名古屋芸術大学(音楽学部・美術学部・デザイン学部)／短期大学部

2006年度前期交換留学生作品展

毎年恒例の交換留学生による作品展が、7月14日(金)から7月19日(水)まで、本学アート&デザインセンターにて開催されました。

今回はイギリス・ブライトン大学より4名(Eleanor Nicholls, Sarah Potheringham, Theresa Martin, Patrick Minnikin)、韓国・龍仁大学より2名(金 アルム、李基遠)、韓国・慶南大学より1名(金 英恵)、フランス・ディジョン芸術大学より1名(Cecile Ferard)、計8名の交換留学生

が参加しました。

出品内容は、パネル、写真、スクリーンプリント、油絵、鉛筆画、模型、ガラス、映像など多彩で、多くの作品に、彼らが日本に来て出会った人・物・風景などが、それぞれの感性を通して表現されていたのが印象的でした。例えばある留学生は、来日前に想像していた日本人のイメージを人物型の立体パネルで、来日後に知った日本人の姿を鉛筆画で対照的に表現していました。また、食料品などのパッケージの断片を切り貼りし日本の

風景に見立て、その中を外国人である主人公がどンドン歩いて行く…というストーリーの映像作品もありました。彼らが新鮮な驚きをもって日本での生活を送っていたであろうことが想像されます。日本に暮らす私達も、異文化というフィルターを通してみると、当たり前と見過ごしていたことにも新たな発見ができるかもしれません。

この作品展は、交換留学生の半期ごとの研究成果を発表するものですが、本学の学生にとっても、制作への新しい発想

を得たり、留学生に接し国際交流を体験する機会となることを期待しています。(芸術文化交流室)



美術学部・デザイン学部 オープンキャンパス

去る7月15日(土)本学西キャンパス(美術・デザイン学部)において、本年度2回目のオープンキャンパス(体験編)が開催されました。

今回のメインの企画は、「アート&デザインワークショップ」で、キャンパス内各所に、来場者の皆様に気楽に参加してもらえる体験教室が開催されました。美術学部は絵画科で、岩絵具体験とガラス絵体験の2つのワークショップを、造形科では、石膏・木彫のデモンストレーション、ガラス造形体験、ロクロ体験の3つ、美術文化学科では、アートカフェと美術鑑賞入門講座の2つ、合計7つのワークショップを開催しました。

デザイン学部では、ヴィジュアルデザインでプリンティング体験など2つ。メディアデザインでデジタル映像制作体験。インダストリアルデザインでカーデザインなど2つ。スペースデザインでオリジナルランプの制作。メタル&ジュエリーデザインではシルバリングの制作。テキストスタイルデザインでフェルト制作。イラストレーションデザインで似顔絵体験。ライフスタイルデザインでは、食とデザインをテーマに食に関する学生によるワークショップなど、合計10の体験教室が行われ、参加者した生徒たち大変好評でした。

また、他にも多彩な催しがあり、チューレントギャラリーコーナーでは、学科毎に入試時の参考となる作品の展示

と説明や在学生の課題作品の展示などが行われました。今回のオープンキャンパスに自分の作品を持参した人に対しては、本学教員による講評やアドバイスがあり、また、進路や入試の相談コーナーも設けられました。

さらに、就職や国際交流、留学に関する相談コーナーや、「アートバザー(イン名古屋芸大)」と称した在学生による自作作品の展示即売コーナーなども設置されていて、とても楽しく見学できる内容でした。学内のギャラリーでは、前期留学生の作品展が開催されており、美術学部造形科では、サマーセミナーも同時に開催されました。

美術学部・デザイン学部では、この後、9月17日(日)及び10月14日(土)の両日

にもオープンキャンパスが開催されました。7月の「体験編」に続いて、9月・10月は「進学編」で、名古屋芸術大学への進路や入試について何でも答えてくれる相談コーナーを中心として、参加者の持参作品に対する専門分野の講師によるアドバイスなどが行われました。参加者の真剣なまなざしが印象的でした。



国土緑化運動の記念切手に採用される 一本学美術学部OB 林 真さんの日本画一

国土緑化運動の中心的行事として毎年行われている全国植樹祭は、第57回目となる本年5月21日、「ありがとう未来へつなげ森のめぐみ」をテーマとして、岐阜県(メイン会場:下呂市)で開催されました。

この国土緑化運動を記念して発行された「ふるさと切手(岐阜県)」の原画に、名古屋芸大日本画コースOBの林 真(Shin Hayashi)さんの作品が採用されています。2006年5月19日に発行されたこの切手は、東海地区はもちろん、全国の郵便局で販売されています。

デザインは、岐阜県の県花である「ゲンゲ」、岐阜県で発見されたことにちなみ名づけられた「ギフチョウ」を前面に、背景には雪をいただいた「乗鞍岳」を描き、森林が豊富で緑豊かな岐阜県を象徴する構図となっています。

作者の林さんは、1999年名古屋芸術大学大学院美術研究科を修了。同年、全関西美術展第三席。2004年、日春展奨励賞受賞(他6回入選)。2005年には、臥龍校日本画大賞展で大賞を受賞するなど、新鋭の日本画家として活躍しています。今回、切手の原画の制作にあたっては自身の画風にこだわることなく、一般的に「美しさ」を表現することを心がけたと

のことです。

林さんは現在、本学東キャンパスのすぐ近くにアトリエを構えて活動されています。将来の夢は、「絵画を通して人々の役に立てるような仕事をしたい」と語っておられました。



林 真(Shin Hayashi) プロフィール	
1972	岐阜県土岐市生まれ
1996	日展 中日賞(以後6回入選)
1997	荻須記念美術館いざなわ公募展 最優秀賞
1999	名古屋芸術大学大学院修了 全関西美術展 第三席
2004	日春展 奨励賞(他6回入選) 岩絵具の可能性を求めてII選抜(古川美術館)
2005	次代を担う作家展(加藤栄三・東一記念美術館) Volant展(TAKUMIミュージアム) 臥龍校日本画大賞展 大賞('04優秀賞)

東濃地区卒業記念演奏会を終えて

名古屋芸術大学卒業生による第24回東濃地区卒業記念演奏会が、2月12日(日)午後多治見市文化会館小ホールで開かれました。

四半世紀近く続いたこの会の始まりは、当時、大学主催の演奏会と言えば定期演奏会と卒業演奏会くらいで、一度もステージ経験のないまま卒業する学生が多い中、たまたま多治見北高校から10名近い卒業生が出た年に、ぜひ地元のホールで四年間の勉強の成果を披露したいという学生たちの声でスタートしました。

地元の卒業生は都合のつく限り全員参加を呼びかけ、自主運営で回を重ねてきました。多治見市教育委員会の後援、中日新聞での広報と沢山の方々に支えられ、今では東濃の春のコンサートとし

てなじみになってきています。24年にわたるこの演奏会に出席した学生は延べ350名余。社会に出て音楽活動を始める第1歩として、それなりに価値があったと思います。

しかし昨年、名古屋芸大は、中京地区においてどの音楽大学よりも多くの演奏会を開催し、沢山の学生が様々なコンサートに出席して、ステージ経験も豊富になってきました。一方では、ステージに関心を持たない学生も増え、少子化の影響もあってか地方のコンサートは成立に必要な出演者を集めるのに頭を痛める状況になっています。今後この会を継続する上での困難を考えると、ここで一区切りを付けた方が良く思うられます。

時代と共に変化する状況や、人々の関

心の移り変わりに見合った転換を計るのも必要ではないかと思えます。これから、それにふさわしい活動の場が見付ければ、又喜んで応援していきたいと思

ます。長年にわたる名古屋芸大音楽学部同窓会の後援に心から御礼申し上げます。

音楽学部教授 早瀬 圭子



北名古屋シティ管弦楽団 第一回定期演奏会

北名古屋シティ管弦楽団は、地元のプロ演奏家を中心に音楽愛好家などが発起人となり、1993年4月に西春フィルハーモニー・オーケストラとして設立いたしました。年2回の定期演奏会を軸にこれまで21回の演奏会を開催してまいりました。2006年3月、西春町と師勝町の合併による北名古屋市誕生に際し、地元の皆様により愛される楽団となることを願って、楽団名を「北名古屋シティ

管弦楽団」と改称いたしました。設立当初より、名古屋芸術大学の歴代の学長先生には当団の顧問をお引き受け下さっており、特に竹本義明先生には音楽監督として多大なご指導を受けております。また、楽団員の中にも名古屋芸術大学の卒業生が活躍しております。

9月3日(日)に北名古屋市文化勤労会館・大ホールで開催いたしました第1回定期演奏会では、新市誕生を記念し、また新楽団名称披露と銘打って、ベートーヴェン作曲 交響曲第9番「合唱付」他を演

奏いたしました。この演奏会にあたっては、竹本義明先生のお取り計らいにより山田正丈先生はじめ名古屋芸術大学の全面的なご支援を受け、ソリストには大学の先生方を、合唱団には卒業生、在校生の皆様にご参加いただき、大変感謝いたしております。当日のご来場者もほぼ満席となり、大成功を取ることができました。

今後とも名古屋芸術大学のご指導を仰ぎながら、質の高い音楽を地元の皆様に関わっていただけるよう努力して参

所存です。

2006年9月 北名古屋シティ管弦楽団
団長 東 和夫



イタリア声楽コンクールで 「イタリア大使杯」を受賞

本学大学院音楽研究科OB 笛田 博昭氏

「観客を引き付け、人に感動を与えることの出来るソリストになる」ことを目標とし、テノール歌手として活動している笛田 博昭さんは現在、28歳独身。名古屋芸術大学音楽学部声楽科を首席で卒業、同大学院の平成15年3月修了生です。

笛田さんが音楽の道に入ったきっかけは、高校2年の時に授業で世界の3大テノールの名手を見て、その歌声のすばらしさに感動した事でした。中学卒業までは歌とは全く縁のない生活で、新潟の実家(父親は大工さん、母親はロッジを経営)の後を継ぐつもりでした。それから声楽の練習をはじめ、高3の時、新潟県の声楽コンクールで優勝して、自分自身

の可能性を感じて、歌の道をめざすことになったそうです。

幼少の頃からではなく高校生になって急に声楽の道に入ったため、大学の音楽学部への進学準備不足から、「実技と面接中心」の推薦入試のあった本学を受験し入学されました。大学では中島基晴先生に師事しテノール歌手を目指して勉強する事になりました。天性の能力に恵まれたこと、厳しい個人レッスンに耐え努力した結果、テノールの中でも「重たい感じのテノール(リリコス・スピント)」を歌える歌手として、大学を首席で卒業しました。

プロのソリストとして気をつけていることは、正しい発声法や呼吸法に常に気を配ることや、高い声を出すときに精神を集中することだそうです。現在は、

出演依頼のある公演に出たり、自ら出演したいオペラのオーディションを受けたりして活動しています。

本年7月東京で行われた第37回イタリア声楽コンクールで「イタリア大使杯」を受賞されました。昨年は入賞のみだったようですが、今年は、シエナ大賞に次ぐイタリア大使杯というタイトルを手に入れました。また、去る9月2日には、第12回新宿区民オペラ「トゥーランドット」にカラフ役で出演、全曲を歌われました。2007年1月には、藤原歌劇団公演のオペラ「ラ・ボエーム」にテノールの主役ロドルフォ役で出演予定です。

笛田さんは、今後の活躍が大いに期待される新人テノール歌手です。現在、名古屋芸術大学の実技補助員も兼務されています。



笛田 博昭 プロフィール

名古屋芸術大学声楽科首席卒業。同大学院修了。「運命のカノアルヴァー」役「ドン・カルロ/タイトル役」など、多数のオペラに出演。「第九」のソリストも務める。

鮫島有美子先生 夏期公開講座

名古屋芸術大学音楽学部主催の夏期



音楽講習会が7月22日(土)～25日(火)まで開催されました。本年度の参加者は240名で、高校生が150名、小中学生が77名、社会人他が13名でした。講習内容は、実技アドバンス・実技ベーシック・サウンドメディア・ミュージカル・リズム&ステップ・楽典・ソルフェージュの6コースで、実技コースにはそれぞれ実技科目として、声楽・ピアノ・弦管打楽器・電子オルガン・ジャズポップスの5科目が設置されて行われました。科目受講では

ピアノが最も希望者が多く、ベーシックコースで約5割、アドバンスコースでも4割以上の方が受講しました。

講習会初日の22日に、「夏期音楽講習会スペシャルイベント」として、本学特別客員教授鮫島有美子先生による公開講座が行われました。鮫島先生は日本を代表する世界のソプラノ歌手で、声楽では世界を知るトップアーティストとして知られています。

今回の公開講座は「歌曲研究」の講座

で4月、6月に続き3回目となりました。回を重ねる毎に指導面でも厳しさが増し、緊張感の漂う中でレッスンが行われました。外国歌曲の詞に込められた“ことば”の解釈から、発音やそれを表現する手法を指導されていました。深く考えないで当たり前と思っていた学生の思い込みの部分に、プロの視点からの鋭いアドバイスが行われました。

公開講座には本学の学生を中心に、高校生や一般の社会人も参加されました。

名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ 定期演奏会開催される

名古屋芸術大学ウィンドオーケストラの第25回定期演奏会が、9月7日(木)午後6時30分より愛知県芸術劇場コンサートホールで開催されました。今回のプログラムは、本学演奏学科竹内雅一教授の指揮による「序曲『ローマの謝肉祭』」、「モナムジカル」、「ザ・レッド・マシーン」の3曲と、ベルギーの著名な作曲家

で本学の客員教授でもあるヤン・ヴァン＝デル＝ロースト氏の指揮による、「タンツイ」、「オリンピカ」、「組曲『展覧会の絵』」の合わせて6作品でした。

「タンツイ」と「オリンピカ」の2曲は、ヤン・ヴァン＝デル＝ロースト氏自らが作曲した作品です。「タンツイ」は神戸シンフォニックバンドの委嘱作品で、本年3月に同バンドによって初演されたもので、伝統的なロシアの民族音楽スタイル

で作られています。「オリンピカ」は長野市民吹奏楽団の委嘱により楽団創立20周年のために作曲されたもので、タイトルは当時、長野県で開催予定になっていた冬季オリンピックにちなんで名づけられ、その名のとおり輝かしく華々しい雰囲気を持った曲です。

全身全霊を込める指揮者と各楽器の演奏者が一体となった演奏は、まさにウィンドオーケストラの醍醐味を肌で感

じる事の出来るすばらしい内容でした。



新学部(人間発達学部・子ども発達学科) 教育懇談会実施される



本学が2007年4月に開設予定の新学部(人間発達学部・子ども発達学科)の教育内容を紹介する教育懇談会が、7月7日(金)午後4時より、名古屋駅にある名古屋マリOTTアソシアホテルで開催されました。愛知県を中心とした東海地区の高等学校から70名ほどの先生方が参加されました。

学長の挨拶に続いて、新学部学部長予定者の太田先生から、新学部開設の狙い

と求める学生像についてのお話がありました。続いて、広報企画部長の松田先生より、本学における新学部の位置付けと、開設までのスケジュールを含めた学部概要の説明がありました。その後、カリキュラムや資格取得のための単位数など具体的な教育内容について、新学部教授予定者の伊藤先生が、さらに、入試日程や選抜要項・学費などについて、星野先生が説明されました。

本学の既設3学部と短期大学部保育科が長年培ってきた保育士や教員養成の実績を基に開設される新学部は、保育士資格はもちろん、幼稚園教諭一種及び小学校教諭一種の免許状も取得可能な本格的な教員養成のための学部です。参加された先生方からは熱い期待のメッセージが聞かれました。

新学部(短大)オープンキャンパス

2007年4月開設予定の名古屋芸術大学人間発達学部を紹介するオープンキャンパスが去る8月26日午前10時より本学東キャンパスで開催されました。11時までの1時間は、3号館の音楽講堂ホールで参加者全員を対象とした催しが行われました。事務長の開催の挨拶に続き、短大部音楽科学生4名によるピアノ演奏と、クラブ・サークルを代表して

リズム体操部と和太鼓部が日頃の練習の成果を高校生や付き添いのご父母に披露しました。

この後、新学部学部長予定者である太田先生から「人間発達学部子ども発達学科」の内容について説明がありました。新学部開設の狙い、新学部の特徴、求める学生像、入試選抜、以上の4点についての簡潔でわかり易いお話でした。

11時以降14時までの3時間は、昼食

をはさんで、キャンパスの各施設で行われている多彩な催しに自由に参加していただきました。具体的には、①教育者・保育者のためのミニ授業(4講座開講)②個別何でも相談コーナー③面接試験模擬体験④乳幼児保育のおもちゃ展示(学生の手作り作品)⑤日本画チャレンジコーナー⑥リズム体操部演技発表・体験コーナー⑦附属クリエ幼稚園見学⑧学食体験などが行われ、参加者は自由行動で

思い思いの体験をして終了しました。



音楽教育コース

夏期休業を利用しての活動情况

音楽文化創造学科/音楽教育コースでは、今年の夏も勢力的に教育活動を展開。8月4・5日の二日間、ボストン美術館の「江戸の誘惑」開催に招かれ、一般より募集された子ども達と共に、雅楽演奏と楽器に触れる体験学習教室を実施。

9月4・5・6日には、文部科学省助成対象の例年実施している音楽体験旅行を、学生・教員含め54名の編成で、石川県の小・中学校へ出向きました。学ぶ喜びと与える喜びを体験するために、夏休みを返上し、多くの学生が合唱・ハンドベル・雅楽・金管五重奏・木管五重奏と練習に励み、その成果を学校教育現場で披露しました。児童より盛大なる拍手で演奏会の時間も30分も延長する学校もありました。児童たちは次々と繰り出される音楽に時間の経過も忘れ、拍手を贈り続けてくれ、感動多き体験旅行でした。その様子は大きく北國新聞・北陸中日新聞に掲載されました。

音楽教育コース教授
取越 哲夫



ボストン美術館での、子ども達との触れ合い

2006年度 第14回 文化創造セミナーについて

文化創造セミナーは、2000年から毎年開催されている名古屋芸術大学短期大学部保育科主催の学科行事です。本セミナーは、年に2回、様々な文化に触れることによって広い視野を持つ感性豊かな保育者の養成を目的として開催してきました。また、文化的で心豊かな生活を創り出すために、私たちはどのようなことができるのかということを考える学びの場、生涯学習の場として、一般公開セミナーの形式をとり、卒業生をはじめ広く学外の方々へ案内してきました。

2006年度の第14回文化創造セミナーは、9月16日(土)午後1時30分より約2時間、北名古屋市健康ドーム・アリーナを会場に開催されました。セミナーの内容は、福尾野

歩氏(オフィスNOBO)による「人と人をつなぐふれあい遊び」でした。本学保育科の学生はもとより、卒業生や一般の来場者も多数あり、保育の現場に芸能を取り入れた熱心なセミナー内容に、人と人とのふれあいを改めて考えさせられた刺激的なセミナーでした。

今後も、文化創造セミナーの開催を通して、様々な文化に触れる学びの場を提供していきたいと願っています。



韓国 昌信大学を訪問して

6月1日から3日まで、短大部では国際交流の一環として大島学長、田中副学長ほか7名が、昨年度から始まった相互訪問による講義等を行うため韓国昌信大学を訪問いたしました。

昌信大学では、大島学長は姜学長と会談した後、各施設において学生たちへの代表挨拶をされました。講義等の内容は田中副学長、渡部教学部長によるピアノ演奏会、太田保育科長による特別講演、土佐音楽科長による声楽公開レッスン、加藤教授による折り紙実習、高橋職員による和紙造形が、各施設において行われ成功を収めました。

今後は、学生の相互交流が実現するなど活発な活動が

期待されます。



名古屋保育・福祉専門学校

介護福祉科観察実習が行われる

『古き良き時代を感じ、高齢者の世界を知る!』

「高齢者の方を介護するためには、まずは高齢者の方の生きてきた時代と時間を知ることが大切だ!」

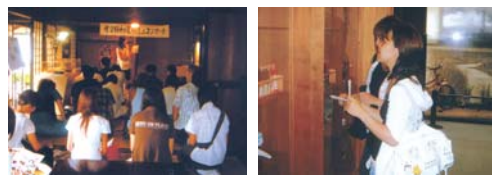
そのような思いから、名古屋保育・福祉専門学校介護福祉科1年生では、課外授業の一環として、9月5日(火)に北名古屋市にある歴史民俗資料館・旧加藤家・回想法センターに行ってきました。

北名古屋市歴史民俗資料館では、昭和初期のたばこ屋や床屋などの建物や民家の内部が再現されており、当時使用されていた生活用品、おもちゃなどが展示されていました。学生たちにとっては初めて見るものばかりのはずなのですが、なぜか懐かしさを感じたり、ガラス製の機械を見てそれが真空管ラジオだと知るなど、新しい発見をしたようです。普段の生活の中で当たり前のようになっている日用品の昔の形を知り、モノの

変遷を理解できました。また、自分たちの祖父母の家に実存する古い日用品と同じものを見つけて、改めて祖父母の生活についても関心を持ったようでした。

旧加藤家は明治初期から昭和にかけて建築された民家で、土間や茶室、水琴窟、階段草笥など珍しいものも見ることができました。そし

て回想法センターでは、回想法についての説明や実際の様子などのお話をうかがい、回想法という一つの取り組みから創造される縁を感じました。



幼稚園

滝子幼稚園 恒例の夏祭りが行われる

子ども達が楽しみにしていた夏まつりを8月26日に行いました。園内はゲームコーナー・おぼけ屋敷、園庭にはやぐらが組まれ、提灯が揺れて夏まつりムード一色でした。

子ども達は普段の制服姿とは違い、法被姿や浴衣、甚平の愛らしい姿で登園しました。うちわを片手に宝引き・輪投げ・ヨーヨー釣り・海賊やお姫様になりきった写真コーナー・ちよっと?! ずいぶん?! 怖かったけれど頑張って入ったお化け屋敷など各コーナーはどこともワクワク感・ドキドキ感いっぱいでした。

そして盆踊りのオープニングとして和太鼓演奏を楽しみました。お腹に下

ーンドンと響く太鼓に初めは圧倒されていた子ども達も音に慣れると、太鼓に合わせて歌を歌ったり、踊ったり、手拍子をしたりして音を身体で感じる姿が印象的でした。



クリエ幼稚園 お泊り保育

7月19日・20日の二日間、年長児対象に幼稚園でお泊り保育を行いました。お泊り保育のスタートは、夕食のカレーライスに使うにんじん、たまねぎ、じゃがいもを切ることで。みんな緊張した表情で包丁をにぎっていました。次は夜の探検「オリエンテーリング」。いつもの明るい幼稚園の雰囲気とは違った少し暗い幼稚園の中を、友だちとぎゅつと手を握り合って、ドキドキしながら探検しました。そして、いつも元気に遊んでいる遊戯室でみんなと一緒に寝ました。毎年年長さんが発見するのは、遊戯室の天井の形のおもしろさ! いつもはじっと見る機会が少ない天井を、友だちと一

緒に寝転がると、六角形だということに気付く、6人で手をつないで寝転がって、形を作って遊んでいます。「特別」ということが大好きな子どもたち。お泊り保育でしかできない、年長さんだけ特別! 今日だけ特別! という特別な思い出がたくさんできたお泊り保育でした。



天井と同じ形だね!

2006年11月以降の主な行事・イベントスケジュール

美術学部・デザイン学部

ヴェネチアングラスの巨匠
リノ・タリアピエトラ氏による
特別ワークショップ 9:00～
11月17日(金)～18日(土)

〈アート&デザインセンター展覧会〉

- 企画展3「Slow Tech」
Media art from Taipei
10月27日(金)～11月8日(水)
- 洋画大学院+教員展
11月10日(金)～11月15日(水)
- 造形科工芸選択コース作品展
12月1日(金)～12月6日(水)
- 日本画コース3年作品展
12月8日(金)～12月13日(水)
- 古美術デッサン展
12月8日(金)～12月13日(水)
- 名古屋芸大後期交換留学生作品展
12月15日(金)～12月20日(水)
- JAGDA新人賞展
1月6日(土)～1月13日(土)
- ID/SD卒展プレ展示
2月9日(金)～2月10日(土)

第34回卒業制作展
美術学部(絵画科・美術文化学科)、
デザイン学部(デザイン学科)
2月28日(水)～3月4日(日)
愛知県美術館ギャラリー
10:00～
美術学部(造形科・版画選択コース)、
デザイン学部(デザイン学科)
2月27日(火)～3月4日(日)
名古屋市民ギャラリー矢田
9:30～

卒業制作展記念講演会
3月3日(土)
愛知県芸術文化センター12階

第11回大学院美術研究科
修了制作展
3月13日(火)～18日(日)
電気文化会館 10:00～

幼稚園(滝子)

- 作品展
11月18日(土) 9:00～
- クリスマス会
12月15日(金) 10:20～
- おもちつき
12月21日(木) 10:30～
- 生活発表会
2月18日(日) 9:00～
- 一日動物園
2月26日(月) 10:30～
- 修了証書授与式
3月17日(土) 10:00～

幼稚園(クリエ)

- 親子でミュージカルを楽しもう
11月18日(土) 10:00～
- 生活発表会
12月16日(土) 9:30～
- クリスマス会
12月21日(木) 10:30～
- 造形展
1月28日(日) 9:30～
- 卒園式
3月15日(木) 10:00～

名古屋保育・福祉専門学校

- 学校祭 / 進学相談会
11月18日(土) 10:00～
- 2007年度入試日程
11月12日、11月25日
12月9日、12月24日
1月27日
2月11日、2月24日
3月10日、3月26日

音楽学部

- 第14回ピアノの夕べ
11月9日(木) 17:30～
電気文化会館
- 音楽療法コース教員コンサート
「音のギャラリー」
11月15日(水) 18:45～
しらかわホール
- 第29回定期演奏会
11月16日(木) 18:00～
しらかわホール
- 電子オルガン演奏会
12月6日(水) 18:30～
熱田文化小劇場
- 第25回室内楽の夕べ
12月7日(木) 18:00～
12月8日(金) 18:00～
熱田文化小劇場
- 平成18年度音楽企画(4)
「ザ・ルネッサンス21」
12月21日(木) 18:30～
しらかわホール
- 第5回歌曲の夕べ
2月8日(木) 18:30～
電気文化会館
- 平成18年度研究生修了演奏会
2月15日(木) 18:00～
電気文化会館
- 大学院音楽研究科特別演奏会
2月16日(金) 17:30～
電気文化会館

- 第11回春のコンサート
ピアノのしらべ
2月24日(土) 17:00～
電気文化会館
- アンサンブル・フィラルモニク・
ア・ヴァン 第8回定期演奏会
2月24日(土) 18:00～
名古屋市民会館
- 第34回卒業演奏会
3月1日(木) 18:00～
3月2日(金) 18:00～
しらかわホール
- ミュージカル公演
3月3日(土) 18:30～
3月4日(日) 14:00～
アートピアホール
- 大学院音楽研究科
第9回修了演奏会
3月6日(火) 18:30～
3月7日(水) 18:30～
3月8日(木) 18:30～
しらかわホール

第29回オペラ公演「カルメン」
3月16日(金) 18:00～
名古屋市民会館

オペラ豊田講演「カルメン」
3月18日(日) 15:00～
豊田市民文化会館

人間発達学部(仮称 設置認可申請中)

- 文部科学省認可予定
11月下旬
- 厚生労働省認可予定
12月上旬
- 学生募集要項(入学願書)配布
12月中旬

- 入学試験実施予定
1月14日(日) 指定校推薦入試
1月19日(金) 一般推薦入試
2月 3日(土) 一般A日程入試
2月 4日(日) 一般A日程入試
3月 3日(土) 一般B日程入試
3月24日(土) 一般C日程入試

編集後記

朝夕めっきり涼しくなり秋真っ只中、大学は学園祭の季節を迎えています。本学では11月1日から3日まで短大と合同の「芸大祭」が行われます。期を同じくして「名古屋芸大グループ通信」の創刊特集第2号が出来上がりました。芸大祭に来られる学外の皆様にも是非手にとって見て頂きたいと思っています。

今号の特集は、幼児や小学生を対象とした本学の芸術教育(感性教育)の実践例を取り上げました。本学は2007年4月に「人間発達学部 子ども発達学科(設置認可申請中)」を開設予定ですが、芸術大学になぜ教育学部なのかという疑問に挑戦したつもりです。子どもたちの「生きる力」を育むために、幼児期における芸術的感性教育がいかに重要であるかをご承知のとおりです。本学は一般の社会人の方を主対象とした「生涯学習大学公開講座」でも「親子で楽しむリズム遊び」など幼児を対象とした講座を設置しています。

ニュース&トピックスでは、各学部やグループ校の様々

な活動をご紹介しました。中でも今回は、社会で活躍している卒業生のお二人、日本画家の林さんと声楽家の笹田さんにスポットをあてて見ました。お二人とも将来が大いに期待される新鋭の芸術家です。また、本学所在地の北名古屋市は町村合併によりこの3月に誕生しましたが、これを機会に「北名古屋シティ管弦楽団」が再発足し、このたび第一回定期演奏会が開催されました。地元の演奏家の方々と本学の教職員のコラボレーションで、ベートーヴェンの第九が合唱演奏され大いに盛り上がったようです。

インフォメーションには、行事・イベントのスケジュールの他に、新学部の入試日程を掲載しました。設置認可の関係で入試は年明けからになりますが、皆様のご期待に応えるべくスタッフ一同頑張っています。

この9月より本誌の紙面を本学のホームページに掲載しています。いつでもご覧いただけますし、ダウンロードもできますのでご利用ください。(つ)



大学基準協会の
認証評価に合格しました
本学は2006年4月に、認証評価機関である大学基準協会の
大学基準に適合と認定され、
正会員になりました。認定期間
は、2006年4月から2011
年3月までです。これによって、
法令化されている「第三者に
よる認証評価」にも合格した
こととなります。



【表紙の作品】
「Scrappers」小椋文
2005年度卒業制作作品
(フライング賞)
※オリジナルを元に一部加工して表紙

発行：全学広報誌編集委員会
編集：名古屋芸大グループ通信編集部
制作：(株)クイックス
発行日：2006年10月31日
■お問い合わせ先
名古屋芸術大学 芸術文化交流室
〒481-8535
愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
電話 0568-24-0325
Fax 0568-24-0326